

DV相談昨年最多6440件

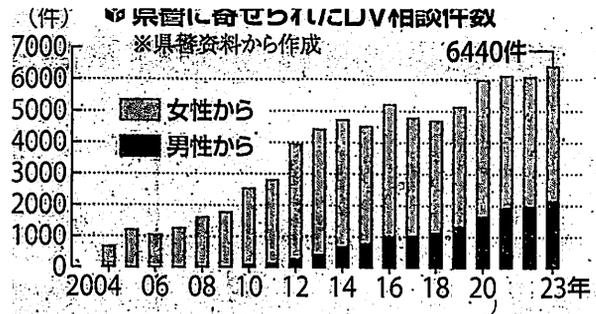
344件増 3割が男性 10年で5倍

昨年、県警に寄せられたドメスティック・バイオレンス(DV)の相談件数は6440件(前年比344件増)で、統計を取り始めた2001年以降で最多となった。そのうち男性からの相談が2156件(33.5%)と、10年前と比べて5倍に急増した。女性からの相談はほぼ横ばいで、男性の相談増が全体数を押し上げている。

(西都悠大)

情報増認識高まる

県警人身安全対策課のまとめによると、昨年の女性からの相談は4284件



で、13年に初めて年間4000件を超えて以降、高止まりの状態にある。一方、男性からの相談は統計開始以降、ほぼ毎年増え続けている。

D.V相談は最寄りの警察署などへ。県男女共同参画推進センターでは、電話相談(048・600・3700)も受け付けている。また毎月第1、3日曜の午前11時～午後3時には、男性臨床心理士が対応する「男性のための電話相談」(048・601・2175)を実施している。

電話相談活用を

る。

昨年の相談総数6440件のうち、県警が事件として検挙したのは、前年より24件増えて479件。罪種別にみると傷害203件、暴行174件、殺人未遂13件などだった。加害者への「注意・指導」は5530件、「児童相談所や自治体などへの情報連絡」は4058件だった。

目立つのは男性からの相談の急増だ。昨年、県警に寄せられた通報の中には「妻から殴る蹴るなどの暴行を受けた」「ロビンがヒートアップし、包丁で刺された」などで、男性が救急搬送されたケースもあったという。

急増の背景には、DVに対する認識の高まりがあると思われる。新型コロナウイルス流行時には、在宅時間が増え、家庭内の不和が深刻化しやすい環境が続いた。警察などが危険性を積

に関する報道が増えた。日本大学の鈴木秀洋教授(危機管理学)は「DVに関する情報に触れることが増え、『男女問わず被害者になりうる』との認識が社会に広まったのではないかと。警察が積極的に家庭内の問題に対処するようになったことも大きい」と分析している。

「精神的なDVに対しても認識が広まれば、さらに相談件数が増える可能性がある」として、相談者には防止法の保護対象を丁寧に説明していくという。

■虐待通告も最多

D.Vのほか、児童虐待を

リネに通告したノ妻を叩き... 最多の1万1538人(同463人増)を記録した。内容別では、子どもの目の前で家族に暴力をふるったり、子どもを無視したりす

その1月1日... 0人と最も多く、身体的虐待が1660人と続いた。ストーカー被害の相談を受理した件数は1032件(前年比8件減)で、ここ

妻は「1...」... まりしている。相談の... は、「つきまとい、ま...」... 「連続での電話やメ...」... の順が多かった。